

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園4番町7-1
TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110
http://www.orgel-horie.or.jp/ E-mail info@orgel-horie.or.jp

ピアニストたちの系譜Ⅴ～ショパンの弟子たち～



〈ピアノを弾くショパン〉
J. ゲッツェンベルガーの鉛筆デッサン
パリ、1838年10月

19世紀は、まさにピアニストたちの時代であったと言えるでしょう。18世紀から19世紀にかけて、それまでの古めかしい奏法とは全く異なる、柔軟で自然なピアノイズムが発見されたことにより、ピアノという楽器は新たな表現の可能性を獲得しました。このような時代に生まれ、またピアノの変革に多大な影響を与えた人物として、クラシック音楽史を代表するピアニスト・作曲家であるフレデリック・ショパン(1810-1849)が挙げられます。ショパンと同時代のピアニストであるフランツ・リスト(1811-1886)やテオドール・レシエティツキ(1830-1915)が、数百名にもものぼる弟子を抱えて、当時のピアノ界で一大勢力を築いたことを考えれば、ショパンの教育活動は細々としたものであったと言えます。しかし、ショパンにとって教えることは退屈な仕事などではなく、むしろ大変な情熱でレッスンに時間を割き、また独自にピアノの練習法を編み出すなど、熱心に後進の育成に当たっていたことが弟子たちの口から語られています。

ショパンの弟子で、助手も務めたカール・ミクリ(1819-1897)は、今日「ミクリ版」と呼ばれるショパンの楽譜の校訂者として高い知名度を誇っています。ミクリはショパンの楽譜の写譜やレッスンの聴講など、常にショパンの傍で学んだとされ、「ミクリ版」にはそれを裏付けるように、レッスンの際にショパンが楽譜にした書き込みや口頭での注意など、ショパンの指示が丁寧に反映されています。ジョルジュ・マティアス(1826-1910)は、最も長くショパンの指導を受けた弟子のひとりで、ショパンと同じように病弱であったそうです。1862年からはパリ音楽院で教鞭を執り、多くのピアニストを世に送り出しました。また作曲家としても活躍し、交響曲からピアノ曲まで数多くの作品を残しています。このマティアスと並び、ショパンの弟子の中で最も優秀なピアニストのひとりであったと言われるカミーユ・デュポワ(1828-1907)は、ショパンの薫陶を受ける傍ら、ショパンのアシスタントも務めました。デュポワのデビューは、ショパン最期の演奏会となった1848年2月16日パリでのコンサートで、師との共演によるものでした。カミーユはショパンのもとを離れてからも音楽学校に進まず、ショパンのピアノイズムの継承に力を注ぎ活動を続けました。最後に、ショパンの重要な弟子としてアドルフ・グートマン(1819-1882)が挙げられます。約5年間ショパンに師事したグートマンは、弟子の中では古参の部類に入ります。グートマンのおよそショパンらしからぬ鍵盤を叩きつけて演奏するスタイルは、むしろ当時の大ピアニスト、ジギスモント・タールベルク(1812-1871)に近かったと伝えられています。それにも関わらず、グートマンはショパンの大的お気に入りであり、弟子としてはショパンから作品を献呈された唯一の男性であったことなどから、他の弟子から大きな反発が起きました。グートマンはショパンの推薦状を持ってヨーロッパを演奏旅行し、その後は作曲に専念しています。

ショパン門下からはプロのピアニストがあまり輩出されなかったことなどから、ショパンの奏法はほとんど後世に継承されなかったとさえ言われることもしばしばですが、ショパンのピアノイズムは今でも確かに息づいているように思われます。それは、例えばアルフレッド・コルトー(1877-1962)の存在です。コルトーは、ショパン最後の弟子であるエミール・ドゥコンブ(1829-1912)の弟子であり、ショパンの孫弟子にあたります。コルトーの演奏は瑞々しく深い詩情に彩られていて、他に並ぶものがない格別の感動であったと言われます。ショパンの系譜は、確かに量的に豊かではないかもしれませんが、コルトーを見る限り、決してショパンのピアノイズムが途絶えてしまったのではなく、むしろその血脈は、類稀なピアノイズムによって、比類のない高みに昇った巨人を輩出していると言えるのではないのでしょうか。

〈参考文献〉

真嶋雄大「ピアニストの系譜 その血脈を追う」音楽之友社 小石忠男「世界の名ピアニスト」音楽之友社
ジャン＝ジャック・エーゲルディンゲル著 米谷治郎他訳「弟子から見たショパン」音楽之友社



クリスマス通常プログラム

クリスマスイブニングプログラム

11月29日(木)～12月25日(火)

Christmas

クリスマスプログラム

讃美歌やクリスマスソングを Hymn Box と呼ばれるオルゴールや手廻しオルガン、蓄音機などでご紹介します。

毎週木曜～日曜（祝日）

① 10 : 30

② 13 : 00

③ 15 : 00

* 20名様以上の団体の方は事前予約で
火曜水曜も開館致します。

12月20日(木)～12月24日(月祝)

夕方 5 時 30 分から

オルゴールで聴く

クリスマスソングとキャロル

当館3階からの大阪湾から生駒山までのパノラマ夜景の中で讃美歌やオラトリオの流れる Hymn Box やオルゴールによるクリスマスソングやキャロルの演奏をお楽しみ下さい。

秋の庭園特別公開



11月1日(木)～12月9日(日)

毎週木曜～日曜・祝日

* 20名様以上の団体は火曜水曜も開館

紅葉やどうだんつつじで彩る秋の庭園を、オルゴールの音色の余韻に浸りながらお楽しみ下さい。
《オルゴールの演奏》 ①10:30 ②13:00③ 15:00

★展示解説★

期間中の毎日曜日 午後2時から自動バイオリンの仕組みについて当館のスタッフによる補足解説があります。自由参加ですので、御希望の方は 13 時の演奏終了後に展示室 1 階にお集まり下さい。

オルゴール博物館ニュース



秋の庭園特別公開が 11 月 1 日にスタート致しました。見頃は 11 月末だと思われていますが、小春日和の中、一足先に紅葉を楽しむお客様も多く、庭園はにぎわいを見せています。